

人口減でも拡大傾向が続く日本のツラ市場

～ 2020 年度の市場規模は 1521 億円に ～

2006年 8 月14日 (月)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

～ 要 旨 ～

近年、オーダーメイドのカツラや育毛ビジネスが活況を呈している。薄毛に悩む人は、日本全国どれぐらいの数に上るのだろうか。株式会社アデランスの調査（定点観測で調査地点は東京駅、霞ヶ関駅、池袋駅の3箇所）によると、日本人の推定薄毛人口は急速に拡大している。1982年には推定620万人であったが、2004年には1293万人と2倍に膨らんだ。薄毛率は26.0%に達し、20歳以上の成人男性の4人に1人は薄毛ということになる。

薄毛の原因は、様々な要因が複雑に影響し合っているのが一概にはいえないが、若い男性の薄毛が増えている大きな要因のひとつとして食生活の洋食化が挙げられる。高カロリーや高脂肪の食品を大量に摂取すると、それが薄毛につながるといわれている。実際、先に紹介したアデランスの調査においても、アジアに比べて高カロリー、高脂肪の食事をとることが多い欧米で薄毛率が高いことが分かる。

薄毛に悩む人が増えてきたことから、日本のカツラ・育毛市場は大きく膨らんでいる。経済産業省の推定によると、カツラや育毛サービスの市場規模は年々急拡大しており、93年度の643億円から2001年度は1110億円となった。

中長期的にみても、カツラ・育毛市場の拡大余地は大きい。筆者の推計によると、現状のライフスタイルに大きな変化がないと仮定した場合、日本人男性の薄毛率は2004年実績の26.05%から、2010年には29.0%に、さらに2020年には33.5%まで上昇する見通しだ。2020年には成人男性の3人に1人が薄毛に悩むということになる。さらに、国立社会保障人口問題研究所の将来推計人口をもとに、薄毛率から薄毛人口を推定すると、薄毛人口は、人口が減少していくなかであっても、2004年実績の1293万人から2010年には1453.6万人に、2020年には1644.4万人へと拡大する。この結果、2001年度に1110億円であったカツラ・育毛市場は、2010年には1310億円に、2020年には1521億円へと拡大するだろう。

もっとも、この市場規模は、男性の薄毛が増加した影響のみを考慮しているので、女性の薄毛ビジネスも拡大していくということになれば、将来の市場規模はさらに大きなものになるだろう。その点、最近では、ストレスなどから女性でも薄毛に悩む人の数が増えており、男女を合わせて考えれば、カツラ・育毛ビジネスの拡大余地は非常に大きいといえる。